

JUVENILE CLAIMS



令和元年度

# 少年の主張 島根県大会 報告書

第48回 島根県少年弁論大会

SHIMANE CONVENTION



令和元年

日時

9月26日(木)

10:30~15:30

会場

大田市民会館  
大ホール

主催／青少年育成島根県民会議、島根県中学校長会（主管：大田市中学校長会）

独立行政法人 国立青少年教育振興機構

共催／大田市教育委員会

後援／島根県、島根県教育委員会、島根県警察本部、大田市、

大田市青少年育成市民会議、島根県PTA連合会、大田市PTA連合会

# はじめに

本年度で48回目を迎える「少年の主張島根県大会」は令和元年9月26日、大田市民会館大ホールで開催されました。島根県全域から選出された17名が日頃の学校生活や家庭生活を通じて考えたり、感じたりしたこと、体験に基づく意見、社会の中で自分の果たす役割などを自分の言葉で力強く堂々と発表しました。この報告書は当日の主張を収録したものです。是非多くの方々にお読みいただき、中学生の思いや感性を受け止め、今後の青少年育成のためにご活用いただければ幸いです。

私は県立短大の卒業生アルバムにメッセージとしていつも「楽しいときは大いに笑え、悲しいときは空を見上げろ」と書きました。

人はなぜ空を見上げるのでしょうか？

下ばかり見つめていると苦しくなるからですか？

涙が零れ落ちないようにするためでしょうか？

それとも、空には夢があるからでしょうか。

ひとは、それぞれの理由をもって空を見つめます。いやそれ以上にたくさんの人間が理由もなく空を見つめます。理由があっても、理由なんかなくても、空を見つめるのが人間なのです。

今から50年前のことです。島根大学の専攻科にいた私は、研究室の後輩たちと一緒に「青空教室」を始めました。当時、松江市内ではたくさんの障害児たちが重い障害ゆえに学校に通うことができず、一日中家の中で悶々と生活していました。重度の身体障害のために寝たきりの状態で、小さな部屋の天井ばかりをみつめて過ごしている子どももいました。社会から孤立している子供たちを青空のもとで思いっきり遊ばせてあげよう。学生たちの熱い思いが実り、月1回の「青空教室」が始まったのが1970年の春でした。

大学専攻科在学の一年間は、私は、病気を抱え、将来への不安に押しつぶされそうになる日々でした。大学紛争の際に受けた心の傷は、体にも影響を与え、内定を受けていた就職先を断念せざるを得ないところに追い込まれていました。どちらかと言えば、下を向いた生活を送っていたのです。大学を卒業しても一人前の社会人として飛び立つことができなかったのです。その私が、重症の障害児たちを「青空のもとで思いっきり遊ばせてあげたい」と願ったのは、今思い起こせばそれなりの理由がそこにあったのだらうと思います。

「青空教室」の始まった日、あの子たちと私は一緒に青空を眺めました。そして空に向かって万歳と大きな声を張り上げました。

中学生時代は、自分自身に心があると同時に、他人にも心があること、人には誰にでも心があり姿として見えないが、心で想像できる。そうしようとすれば、その認識ができる、そんな時代です。自分以外の人、自分と同じ人間であることに気づき、人と人との関係や支え合いの大切さがわかる、そんな時代と言えるでしょう。

終わりに、本大会に駆けつけていただいた大田市長様はじめ、多数の来賓の皆様、審査員の皆様方、ありがとうございます。本会は、大田市中学校長会はじめ大田市青少年連絡会議など大田市の方々のご尽力を賜りました。またアトラクションには、北三瓶っ子太鼓クラブ、土江子ども神楽団の小中学校の児童生徒さんにご協力をいただきました。厚く感謝申し上げます。

令和元年12月

青少年育成島根県民会議  
会長 高橋 憲二

# 目次

はじめに

大会風景..... 2

審査結果表..... 4

発表作品..... 5

開催要項.....22

審査員・来賓一覧.....23

市郡大会概要一覧.....24

アトラクション紹介／平成30年度（昨年度）の受賞者.....25

全国大会出場者・審査結果.....26

全国大会「内閣総理大臣賞」受賞作品.....27

あとがき



# 大会風景



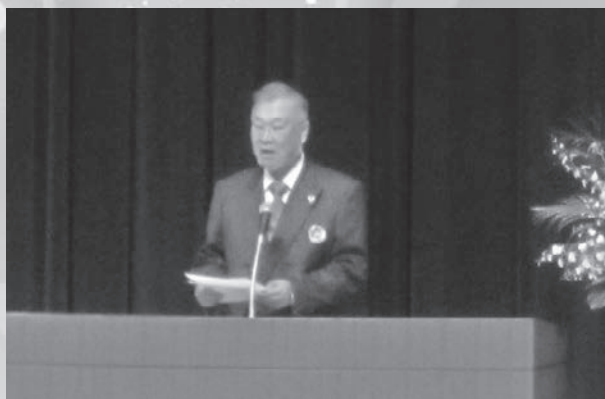
開会式（会場：大田市民会館大ホール）



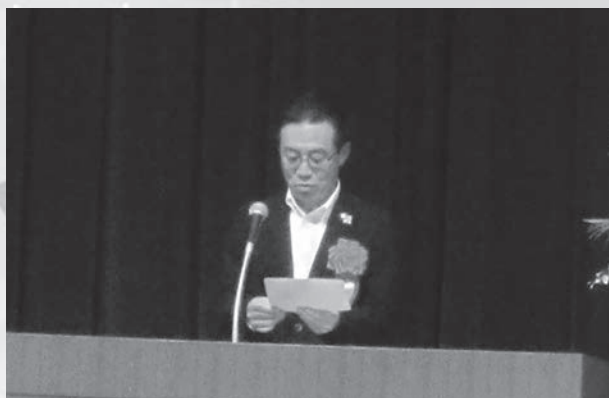
聴衆席風景



島根県知事挨拶（代読 浜田児童相談所長）



青少年育成島根県民会議会長挨拶



大田市長挨拶（代読 大田市副市長）



集合写真



アトラクション（北三瓶っ子太鼓クラブ）



アトラクション（土江子ども神楽団）



審査結果発表及び講評



島根県中学校長会長挨拶



島根県知事賞授与



島根県教育委員会教育長賞授与



島根県警察本部長賞授与



青少年育成島根県民会議会長賞授与



審査員特別賞授与



審査員特別賞授与



## 令和元年度（第48回）「少年の主張島根県大会」審査結果表

| 賞名             | 演題            | 地区 | 学校名         | 学年 | ふりがな氏名             |
|----------------|---------------|----|-------------|----|--------------------|
| 島根県知事賞         | 泥の中から見つけたもの   | 江津 | 江津市立桜江中学校   | 3  | やはぎ しょうき<br>矢萩 勝希  |
| 島根県教育委員会教育長賞   | 今、できること       | 松江 | 松江市立第三中学校   | 3  | まえだ ななこ<br>前田菜々子   |
| 島根県警察本部長賞      | あたり前と向き合う     | 仁多 | 奥出雲町立仁多中学校  | 3  | うちだ さくら<br>内田さくら   |
| 青少年育成島根県民会議会長賞 | 国境を越える想い      | 出雲 | 出雲市立第三中学校   | 3  | かみたに あき<br>神谷 亜季   |
| 審査員特別賞         | 「竜のように、星のように」 | 益田 | 益田市立中西中学校   | 2  | いとう せいらゆう<br>伊藤 星竜 |
| 〃              | 「責任」          | 鹿足 | 津和野町立津和野中学校 | 3  | みかもとあるせ<br>三家本亜瑠聖  |
| 優秀賞            | 五大地に生きる       | 松江 | 松江市立第二中学校   | 3  | ことう ななみ<br>古藤菜々美   |
| 〃              | 私と地域をつなぐ優しさ   | 邑智 | 邑南町立羽須美中学校  | 1  | なかむら みゆ<br>中村 美結   |
| 〃              | 自分の意思を大切に     | 浜田 | 浜田市立三隅中学校   | 3  | とくみつ あゆみ<br>徳光 歩美  |
| 〃              | 未来を変える力       | 雲南 | 雲南市立海潮中学校   | 3  | につた あやか<br>新田 彩海   |
| 〃              | 「限界」の少し先まで    | 隠岐 | 隠岐の島町立西郷中学校 | 3  | たかなし さち<br>高梨 紗知   |
| 〃              | あなたのしるし       | 益田 | 益田市立横田中学校   | 2  | さだ はるこ<br>佐田 治子    |
| 〃              | 笑顔の広げ方        | 出雲 | 出雲市立平田中学校   | 3  | あじき ひな<br>安食 妃菜    |
| 〃              | 「ごめんなさい」      | 大田 | 大田市立第一中学校   | 2  | はなだ はるき<br>花田 春希   |
| 〃              | 一人一人の意識       | 安来 | 安来市立第一中学校   | 2  | すみ まりな<br>角 まりな    |
| 〃              | 自分に負けない       | 大田 | 大田市立第一中学校   | 2  | すぎたに みゆ<br>杉谷 心優   |
| 〃              | 合同チーム         | 飯石 | 飯南町立頓原中学校   | 3  | もりやま ちの<br>森山 智望   |



## 全国大会 奨励賞 島根県知事賞

# 泥の中から見つけたもの

江津市立桜江中学校  
3年 矢萩 勝希

2018年7月。西日本豪雨の影響で江の川が氾濫し、僕たちの家は床上1メートル20センチまで水に浸かりました。水が引き、避難していた祖母の家から僕たちの家に戻ると玄関には泥まみれになった通学用のバックが転がっていました。廊下には水を吸い込みパンパンになった教科書。中の物が取り出せなくなったランドセル。仏間の仏壇は水に浸かり、畳も山のように立ち上がっていました。台所の冷蔵庫も倒れ、家の中は元の様子が想像もできないほどぐちゃぐちゃになっていました。いつも強気な祖父もその状態を前にため息をつくほどでした。

家の片づけは、泥出しから始まりました。かき出してもかき出してもなくなる泥。最初は嫌だなと思いがながらの作業でした。しかし、落ち込んでいる祖父や祖母の様子を見てると自分ももっとやらなくてはと思うようになりました。

ある日、泥出しが終わり、祖母の家に戻ると妹たちがいました。妹たちは災害に遭う前と変わらず、はしゃぎ、大笑いしていました。その姿を見て、僕も父も母も思わず一緒になって笑いました。ずっと張りつめていたものがほぐれ、肩の力もすっと抜けるような不思議な感覚でした。その瞬間だけは水害のことを忘れられました。僕はそのとき初めて笑うということが前向きに生きるために大切だということを知りました。次の日からは作業中もなるべく笑うように心がけました。すると、あまり辛さを感じず、一日がとても速く過ぎるようになりました。水害から一週間ほどして、水に浸かってしまったものを全て家の外に出し、家の床もはがし、骨組みだけにすることができました。

水害から3カ月ほど経ったころから、自分たちで家の修理をすることになりました。父も祖父ももちろん僕も、大工仕事などやったことは

ありません。でも3人で直すしかないのです。それまで僕はものづくりが好きではありませんでしたが、父や祖父と家を修理していくうちにその作業を楽しく感じるようになりました。骨組みの上に座板を置き、その上に床を張るなどして妹たちの部屋が完成したとき。壊れた押し入れに化粧板を張って直したとき。そういうときに大きな達成感を感じました。そして、それを喜ぶ家族の顔を見ると嬉しさはさらに大きくなりました。家が少しずつ修理され、完成に近づくにつれて、僕のものづくりに対する興味も膨らんでいきました。家の修理が終わるころには将来は大工になって、誰かのために家を建てたいと強く思うようになりました。これまで一度も大工になりたいなどと思ったこともなく、将来の夢もなかったのも、水害も悪いことばかりではないなと少しだけ思いました。

僕は水害にあってつらいことがたくさんありました。恐怖も感じました。ただ、その中でマイナスの出来事であっても自分がその出来事をどう受け止めるかが大切だということを知りました。落ち込んでばかりではなく、笑顔でいればマイナスもプラスになるということも分かりました。僕が水害の片づけから将来の夢を発見できたのはいつも笑顔でどんなことも楽しんですることができたからだと思います。

この水害をきっかけにできた大工という将来の夢を、「いつも笑顔でどんなことも楽しんでする」ということを大切にして絶対に叶えたいです。



## 島根県教育委員会教育長賞

### 今、できること

松江市立第三中学校  
3年 前田 菜々子

部活がしたい……。3年生になって私はこれまで以上にこう思う気持ちが大きくなっていきました。吹奏楽部の私は、夏のコンクールのことで頭がいっぱいでした。吹奏楽部の練習は土日は一日練習が当たり前でした。けれど今年の2月ごろ、急にぱたりと一日練習がなくなってしまいました。理由は、部活動の活動時間に関するきまりができたからでした。慣れない半日練習を終え、家に帰り、ふと時計を見ると、まだ12時半。「今までは、あと3時間も練習してたんだよなあ。」と思いました。同時にまだもっともっと練習がしたい、サクスを吹いていた、という不満な気持ちが胸の中で大きく膨らんでいきました。

4月になり、新しい顧問の先生や1年生も加わり、3年生としての部活動が始まりました。そして私も部のみんなも中国大会を目標として、より気が高まっていくのが感じられました。けれど、練習時間が増えるわけでもなく、朝練は火木金曜だけになり、明らかに部活動の時間が減ることに毎日イライラしている自分を持て余していました。部活動の時間が短いと、先輩に教えてあげたいけれど、自分のことが十分にできていないので教えてあげられない。3年生で集まって話し合いがしたいけれど、時間ももったいなくてできない。そんなことが続き、このイライラはどんどん大きくなるばかりでした。

誰かに、何とかこの部活動がしたいという気持ちをわかってもらい、何とかしてもらいたい、そんな思いがいっぱいになってとうとう、「何でこんなに部活動が短いんですか。」と勢いに任せて先生に訴えてしまいました。すると先生は、「仕方がない。限られた時間で今できることをするだけだ。」

と厳しく言われました。私は共感してくれるだろうと思っていました。私と同じように考えてくれるものだ……。私の心は軽くなるどころか、ますます、重く重く不満ばかりがのしかかっ

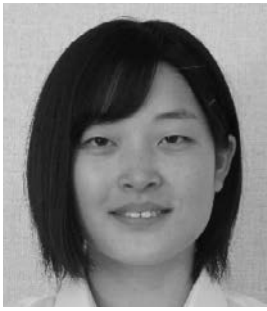
てきました。

その日、家に帰って一人になり、言われた言葉を頭の中で繰り返してみました。すると、何か引っかかってくるものを感じました。「限られた時間」。その時間を私はどう過ごしていただろう。不満ばかりでいっぱいになった頭で練習に専念していたか？できないことをすべて時間が短いということのせいにしていなかったか？時間がない、時間がないと言っていたけれど、その時その時を、真剣に向き合っていたか？引っかかるものとはすべて自分自身につながるものでした。限られた時間で今できることは何か。例えば、お互いに聞き合って、細かいところまでたくさんの意見を出し合い、内容を濃くできたのではないか、家で音源を聞きながらどうすればいいのかイメージすることで、次の練習を効率よくできたのではないか。ようやく先生に言われたことが胸の中にすっぽりと納まり、「やるしかない。」という力が沸いてきました。

私はこの機会に「時間」について考えることができました。同じ30分では、何となく過ごす30分と、集中して過ごす30分では内容の濃さが全く違います。私は今、何となくの30分がもったいないということを改めて実感しています。部活動だけでなく勉強などすべてのことに言えるのではないのでしょうか。私には、中国大会出場という目標がありました。それに向けて「限られた時間」で、何ができるのか、何をすべきか、真剣に向き合えた夏でした。

みなさんは、いろいろなことを時間のせいにしてしまうことはありませんか。一度「時間」について考えてみてはどうでしょうか。限られた時間で何ができるのかって考えてみると、その中でなるべくたくさんのことをやってやろうってチャレンジしたくなりませんか。だから今、できることを精一杯やってみないと、私は思うんです。思いがけない素敵な時間を見出せるかもしれないから。





## 島根県警察本部長賞

# あたり前と向き合う

奥出雲町立仁多中学校  
3年 内田 さくら

あなたは大切な人に感謝の思いを伝えていますか。私は、つい最近まで大切な人への感謝の思いを伝えていませんでした。そんなこと伝えても伝えなくてもたいして変わらない、そう考えていました。でも、ある出来事が私を変えるきっかけになります。

その日、私は母と喧嘩していました。理由は、私を心配して「そろそろ勉強し始めないと終わらないかもよ。」と言ってくれた母に対し、「うるさいな。だまってよ。」と強く当たってしまったからでした。自分が悪い。本当は謝らないといけない。そして心配してくれてありがとうと伝えなければいけない。そう分かっているけど、なんだか恥ずかしくて伝えることができませんでした。また別の日に伝えればいいと思っていました。

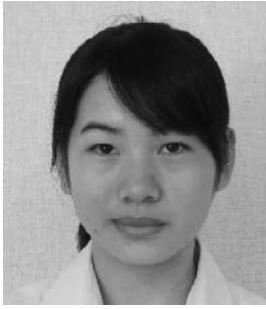
その日の夜、一階でスマホを見ていた私に二階で寝ていた母から電話がかかってきました。なぜ電話がかかってくるのか不思議に思いながら、私は、少し怒った口調で電話に出ました。すると、「寒くていけない。カイロ、持ってきて。」と母の辛そうな声が聞こえました。私は急いで二階へ上がり、母を見たとき驚きました。いつも元気な母が白い顔をして、話すことさえ辛そうにしています。ただの風邪ではないことに気づいた私は、父を呼んできました。父を呼び、再び二階に戻ってきたころには、母の体調はより悪化していました。そして、「誰か、背中を、たたいて、意識が……。」母はそう言いながら意識を失いました。私は倒れてくる母を抱きかかえながら必死に「お母さん、お母さん、死ななないで！」と呼びかけ続けました。ああお母さん、このまま死んでしまうんだ。ごめんねって伝えておけばよかった。ありがとうって言うておけばよかった。いつも喧嘩するけれど、本当は大好きだよって、言うておけばよかった。で

も、もう言えない。それじゃだめだ。そう思った私は、救急車を呼びました。母を助けるために必死でした。

救急車が到着するころには、母の意識は戻り、歩けるまでに回復していました。病院で検査をして、アレルギーが原因で起こるアナフィラキシーだったことが分かりました。そして、点滴をし、深夜1時には、元気になって家に帰ってきてくれました。

戻ってきた母は、「さくらがお母さんと何度も呼んでくれたから意識が戻ったよ。ありがとう。」と言ってくれました。そして、私も「喧嘩してごめん。生きていてくれてありがとう。」と伝えることができました。

私は大切にしたいはずの母を、いつのまにか平気で傷つけるようになっていました。どんなときも私の話を真剣に聴き、嬉しかった話をすれば、自分のことのように喜び、辛かった話をすれば一緒になって悲しんでくれた母。母は私と精一杯向き合おうとしてくれていたのに、私は思春期だからということを利用して、母と向き合おうとしてこなかったのです。母があたり前の存在だからこそ、きつい言葉を言っても大丈夫だとどこか安心して自分がいました。でも、そんな自分を振り返り、私を支えてくれる母に恩返しをしたいと思いました。それからは、目では見えないあたり前の大切さを心で感じ、向き合い、感謝するようになりました。私は、これからも、あたり前を大切に生きていきます。私の思うあたり前が今日も続いているということは、たくさんのものに今日も支えてもらっているという証なのですから。



## 青少年育成島根県民会議会長賞

### 国境を越える想い

出雲市立第三中学校  
3年 神谷 亜季

私は、父の仕事の関係で2歳から小学校1年生まではエジプトで過ごしていました。

「エジプト」と聞いてあなたは何が思い浮かびますか。ピラミッドやスフィンクス、ナイル川などではないでしょうか。では、エジプトの人々という、どんなイメージがありますか。

エジプトは、国民の90パーセントがイスラム教徒です。今まで世界のあちこちでイスラム過激派によるテロが起これ、その無差別で非道なやり方に多くの人々が怒りと恐怖を感じました。また、毎日5回もお祈りをし、豚肉を食べず、断食をするなど私たちと違う習慣もあります。そのため、イスラム教徒全体にマイナスのイメージや理解するのが難しいと感じる人もたくさんいます。確かに経済状況からくる価値観の違いはありましたが、私が出会った人々は、ちょっとおせっかいなぐらいに親切であたたかい人達ばかりでした。「お帰り。バナナどうぞ。」と店先のバナナをちぎってくれる八百屋のおじさん。道端でつまずいて転んでしまった時に、知らないおばさんがかけよってアラビア語で「痛い痛いので飛んで行け。」と慰めてくれたこともありました。その中でも日本へ帰国する前の一年間は今でも忘れることができません。

2011年は、日本にとってもエジプトにとっても大変な年でした。エジプトでは、1月25日に反政府デモが発生し、多くの人々が混乱におちいりました。

しかし、事態はなかなか治まらず私たちは日本に一時帰国することになりました。デモが少しずつ治まり、エジプトに戻れる状況になって私たちは日本を出発しました。

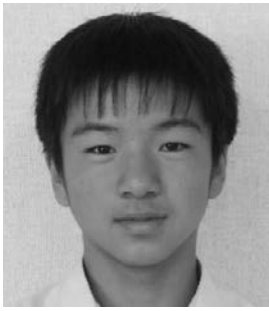
その3時間後、東日本大震災が起こったのです。私達はそのニュースを乗り継ぎ先のシンガポールで知りました。空港内の大型テレビの前で父と母が呆然としていたことを今でも覚えて

います。日本への国際電話も繋がらず、私達家族から笑顔は消えました。エジプトに着くと、完全ではないけれど少しずつ元通りの生活ができるようになっていました。同時に現地の皆さんは、日本への心配から募金活動やチャリティーバザーなど日本のために動いてくれました。私が一番嬉しかったのは、「日本にいる家族や親戚は大丈夫?」「被災した人達は どうしてる?」と八百屋のおじさん達が毎日私たち家族に声をかけてくれたことです。

私は、震災後にエジプトの人から色々なことを学びました。彼らは悲しんでいる人や困っている人をほっておけません、そして、すぐに行動を起こして声をかけたり、募金をしたりしてくれるのです。

エジプトでの生活を通じてエジプトの人も我々と同じ理由で怒ったり、泣いたり、笑ったりすること、人の心は同じものを持っていることに気づきました。どんな人の心の中にも、相手を思いやる気持ちや相手の痛みを分かろうとする気持ちがあるのです。そして、その気持ちがあれば、人と人とはつながっていけると私は信じています。つながりをはばむもの。それは、自分の相手に対する偏った見方や理解しようとする姿勢にあるのではないのでしょうか。

これから私は生きていく中でたくさんの人と出会っていきます。日本にもたくさんの外国籍の方がいらっしゃいます。これから先私も一緒に働くこともあるかと思います。当然、国籍や宗教、言語や考え方が違う人もいるでしょう。でも、私はこう考えます。私が出会う人々の本質を見る目や心をしっかりともちたい。その人のバックグラウンドで判断しない強い自分でいたい。そして、全ての出会いを良い出会いにするつもりで相手と関わっていきたくと思います。



## 審査員特別賞

# 「竜のように、星のように」

益田市立中西中学校  
2年 伊藤 星竜

「なんで?なんでうちにはお父さんがおらん  
のん?」、「なんでこんなに家族多いんよ」  
いつも家族に不満をつのらせる僕。

2005年7月3日、1,596グラムで僕は生ま  
れました。予定よりも3カ月ほど早く、未熟児で  
した。僕は、7人兄弟の末っ子です。本当は9  
人兄弟で、僕とすぐ上の兄の間にも兄と姉が1  
人ずついました。しかし、2人とも生まれてか  
ら少し経って亡くなったそうです。だから、母  
は「竜のように強くなってほしい」と、僕の名  
前に「竜」をいれ、父は「星」を入れたかった  
らしくて、「星竜」という名前をつけてくれま  
した。

しかし、僕が生まれた後に両親が離婚をした  
ので、名前に星を入れてくれた父の顔は分かり  
ません。「どんな人なんかなあ。どんな顔なん  
じゃろ。」クラスメイトの話聞いても、「皆に  
はお父さんがいていいなあ」、「なんでうち  
はお父さんがおらんのん?」寂しさがこみあげ、  
つい母親に八つ当たりしたこともありました。

最近では、「早くごはん食べて!」「いつまで  
ゲームしとるん。早く風呂入りーや」、母だけ  
でなく、兄と姉からも一方的に言われっぱなし。  
「もう、分かっとる!」僕は、逆ギレ。いつも  
注意や小言ばかり。そんな家族が正直「きらい  
……」。

ある時、僕が小さい頃の写真が残っているの  
を見つけました。7人兄弟全員で撮った写真。  
兄や姉は、手作りバースデーケーキの後ろに  
笑って並び、幼い僕は何のことか分からず無表  
情。なんだけど、「家族っていいなあ」と思いま  
した。胸の奥で小さな灯がともったようでした。  
僕は、やっと気づきました。こんなにも多  
くの家族に囲まれて成長してきたことに。母に、  
兄に、姉に、守られてきたことに。

注意や小言は、家族の心配と愛情の裏返し。

それに気づかず、不満を募らせていた僕。「な  
んで?なんでうちは……」と他の人と比べて、  
ないものばかりを数えていた僕。僕を苦しめて  
いたのは僕自身でした。

これまでたまっていた家族への不満がしぼん  
でいく一方で、誇らしさが胸の中で膨らんでき  
ました。

気付いた今なら、分かります。

家族を否定することは、愛情をもって育てて  
もらってきた自分の歴史をも否定すること。自  
分の命がいかにかに尊く、大切にされきたのか。そ  
の事実を否定すること。

僕がしなくてはならないこと。それは、今あ  
る自分の幸せに思いをよせ、それにどう応えて  
いくか考えること。

僕は、8人の大切な命の後に生まれ、両親に、  
名をもらい、命をもらいました。今となっては、  
父がなぜ「星」を入れてくれたのか分かりませ  
んが、亡くなってしまった2人の兄と姉の分ま  
で輝いて欲しいという思いではなかったでしょ  
うか。

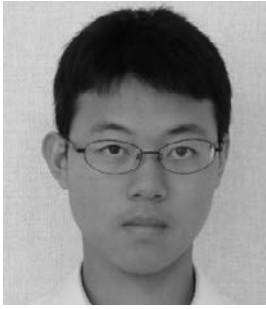
母が守り、兄弟が支えてきたこの大家族。僕  
にとっては、かけがえのない誇りです。

いつかは、僕も一緒になって支えたい。

いつかは、声を大にして伝えたい。

「竜のように、強く、星のように輝いて生きる。  
そんな生き方を僕はしたい。今度は、僕が恩返  
しをする。この家族に生まれてよかった。あり  
がとう。」





## 審査員特別賞

# 「責任」

津和野町立津和野中学校  
3年 三家本 亜瑠聖

「え～、もう掃除？」昼休みの終わりを告げるチャイムが鳴り、僕は渋々掃除場所へと向かいました。「たいして汚れてないんだから、金曜日だけやればええじゃん。」と愚痴を言いながら、手に持ったホウキを左右に振りながら、掃除の終わりのチャイムを待っていました。

ある休みの日の事でした。僕は津和野大橋の近くにある公衆トイレを使いました。ふと見ると、60代位の女性が、ぞうきんを片手に、黙々と掃除をしておられました。僕は、思わずその人に声を掛けました。「掃除、頑張っておられますねえ。」すると、その人は、「ありがとうねえ。ここはねえ、観光客の人やら津和野の街の人がよう使うけえねえ。気持ちよう使うてもらうために、ここをきれいにしとく『責任』があるんよ。」と言われました。「掃除する責任」その言葉を聞いて、「掃除にも、『責任』があったのか？」と、僕は、正直なところ思いました。いつも、いつも、面倒くさいとかやりたくないという理由で、掃除を本気でやっていたいなかった自分が、『掃除に責任』という言葉聞き、驚くと共に、それまでの自分を振り返りました。そして、ものすごく恥ずかしい気持ちになりました。これまで、『責任』という言葉は何度も聞き、意味も理解していましたが、あのおばさんの表情の『責任』という言葉には、本当に重みを感じました。

家に帰り、その日あったことを母に話しました。すると、母は「当たり前じゃろうね。私だって、家族みんなのために、暮らしやすいように『責任』をもって、家事をやっているんよ。」と言われました。その時、僕ははっと気づきました。「僕は自分のやりたいことは進んでやっていたけど、誰かの為にとまってやってきたことってあったらろうか。」「自分が、人がやり易いようにと、気を配ったことがあったらう

か?」「きっと、なかったなあ。」「いや、全くなかった。」考えてみれば、僕にとって、人から頼まれたことは、しなければならないノルマであり、やらなければ怒られる義務でした。そんな事を考えた時、あのおばさんの『責任』という言葉は、エゴと、我儘と、無責任という、「ゴミ」だらけの僕の心を、掃除してくれたように感じました。

その日から僕は、掃除を始め、自分に任された仕事を責任をもってやるようにしています。今、生徒会長として、どうすれば学校をまとめられるか、どうすればみんなが楽しく学校生活を送ることができるか、僕のどんな行動や声かけが、みんなのやる気につながるだろうか、と考えて行動しています。

『責任』それは、責任という意味をしっかりと知り、その重みを感じ、関係する人が笑顔になることを思い浮かべながら、自分に与えられた義務を積極的に果たしていくことだと思えます。そして、人の役にたてて嬉しいと思う気持ちが、きっと、自分を成長させ、社会を豊かにするんだらうと思えます。『責任』とは、他人に喜んでもらえるだけでなく、自分を誇りに思い、輝かせることだと思えます。

別の日、僕は家で風呂掃除をしていました。トイレに行きたくなり行ってみると、母が掃除をしていました。それを見て、公衆トイレを掃除していた、あのおばさんの姿が頭に浮かんできました。

「おばさんは、観光で来た人たちが、きれいなトイレを使って、にこやかな表情で津和野を後にする姿を思い浮かべながら、掃除しているんだらうか。」そんなことを思いながら、「よ～し、明日も掃除頑張るぞ。」と拳を握りました。



優 秀 賞

## 五大地に生きる

松江市立第二中学校  
3年 古藤 菜々美

「あなたは女の子だけん船に乗れんがね。」今年の5月、10年に一度の日本三大船神事ともいわれるホーランエンヤが盛大に執り行われ、私は、父や祖父の乗る権伝馬船を応援に行きました。川の周りにはたくさんの観衆で埋め尽くされ、拍手や歓声でとても賑やかでした。豪華絢爛な125隻に及ぶ船行列は圧巻でした。

10年前、4歳だった私は、練習から本番まで、ずっと身近でホーランエンヤを見て、とても感動したのを覚えています。そんな中で、幼いながら不思議に思ったのは、船には女性が一人も乗っていないということでした。祖父に聞くと「ホーランエンヤは男の人しか船に乗れんのだよ。あなたは女の子だけん船には乗れんがね。」と言われ、子どもながらに、「なんで」と大きな疑問を抱いたのを覚えています。それは、10年たった今でも同じです。

少し前に、大相撲の巡業中、救命のために女性が土俵に上がったのを、放送で止めたというニュースが、物議を醸しました。多くの批判を浴びる中、神事だから、伝統だからとその対応に賛成する意見もありましたが、命に係わる一大事です。優先すべきことが違うのではと思いました。私の通っていた小学校では、男女関係なく参加できる相撲大会が毎年開かれ、私も土俵に上がっていました。こんなふう一般的なしきたりにとらわれず、女性が土俵に上られるように変えることがあっていいのではないかと思います。

本当のところはどうなのだろう。それはいつからそうなったのだろう。疑問に思った私は「なぜ・女人禁制・神事・祭」をキーワードに検索してみました。結局、はっきりとした根拠は分からず、それらが、伝統という言葉に読み替えられてきたこと、そして、今は、制約が取り払われた事例も多くあるということなどがわかりました。

今年のホーランエンヤは父が副伝馬長という

船の副船長だったこともあり、その忙しさは娘の私から見ても、半端なものではありませんでした。本番の数ヶ月前からは、練習の回数や時間が増え、本当に休む間もなかったと思います。その裏で女性達も賄いを作ったり、着物を縫ったり、当日も化粧を手伝ったりと地域総出で頑張っていました。また、権伝馬船を出す、五つの地区を五大地といいます。他の地区でも船に乗る人員の確保に、よその地域から応援を頼んだり、親戚などに参加してもらったりしたそうです。人が足りないなら、女の子が参加してもいいのになと思いました。各地区それぞれが大変苦労されながら、ホーランエンヤに携わっていることを報道でも知り、改めて、伝統を守ることの大切さや、難しさについて考えさせられました。

よく卒業式などで「伝統を引き継ぐ」という言葉を耳にしますが、同じことを引き継ぐだけではいけないのではないのでしょうか。私は生徒会執行部の一員として、「新たなことに挑戦する」を目標に掲げて、学校行事や生徒会活動をいかに活発にするかを、みんなで話し合い活動しています。現状に合わせて変化していくことも結果的に活気ある生徒会活動の伝統を守ることに繋がっていくのだと思います。

伝統という言葉は時に重くて、なかなか踏み込めない部分もあります。でも、昔からこうだったからで済ませてしまうのではなく、もっといろいろなことを学んだり、話し合ったり、知恵を出し合い、地域の実態、さらにはこれからの時代に合わせて改善したり、改革したりしていくことが、伝統を守ることに繋がると思います。私は五大地に生きる一人としてよりよい形で、この素晴らしい伝統を守っていける一人でありたいです。

10年後のホーランエンヤでは、「昔は女の子は船に乗れなかったんだがね」なんて笑って言える日が来るのかもしれない。



## 優 秀 賞

# 私と地域をつなぐ優しさ

邑南町立羽須美中学校  
1年 中村 美結

「あなたが住んでいる所は、どんな場所ですか？」と聞かれたら、みなさんはどんなことを思い浮かべますか。残念ながら昔の私は、あまり良いイメージを思い浮かべることができませんでした。私の住んでいる所には、近所に大きなお店が無く、食料品や服を買うのにも一苦労。冬にはたくさんの雪が積もり、頭を抱えることも多々あります。だから、もっと便利な所に行ってみたいなと感じていました。

しかし、私の住む地域に来た人はそろって「ここはいい所だね」と言います。幼い私は心の中で「本当にそうかな？」とずっと疑問に思っていました。

小学校高学年になると学校行事を通じて地域の方と交流する機会が増えました。綿摘み、川遊び、山遊びと、様々な行事がありましたが、交流に行くたびに地域の方が必ず「よく来てくれたね。」と言って手を握ってくれました。学校の行事に協力してもらっているのだから、私の方がお礼を言うべきなのに、毎回必ず「来てくれてありがとう」と感謝の気持ちを伝えてくださるのです。繰り返される「ありがとう」からは、地域の方が私を好きでいてくれること、大切に思ってくれていることが伝わってきました。

その頃から、私の中にあった地域へのマイナスイメージはだんだんと変化し始めました。そして、今年の6月にそのイメージをがらりと変える出会いが訪れたのです。

6月、1年生全員で地域の方の畑で農業体験をしました。その畑の持ち主の平川さんは、とても素敵な人でした。玉ねぎの収穫を体験させてもらったのですが、きちんと収穫できるか不安な私に、

「もっと茎を長く切った方がええ。」

「皮ははがしすぎたらいけん。いたみやすくなるけん。」と、的確なアドバイスをしてくださ

いました。その日は何度も

「今日来てくれて本当に助かった。」という言葉

を聞きました。作業が終わる頃には

「次はじゃがいもの収穫も手伝ってほしい」と言ってもらえて、とても嬉しくなりました。自分が必要とされている、頼りにされているんだ、またここに来てがんばりたい、と思えたからです。この日一日で平川さんのことが大好きになりました。平川さんとの出会いを通して、私は地域の方の優しさや温かさを強く感じるようになりました。

小学校からのことを振り返ってみると、私たちが気持ちよく交流活動ができるように、いつも誰かが場所や道具の準備をしてくれていました。何度も「ありがとう」を聞くうちに、自分は地域の方に必要とされている、愛されているなど感じるようになりました。そう感じられることは、幸せなことです。この地域にいたからこそ、そういう気持ちになれたのだと思います。

地域の方の優しさや温かさを意識するようになってから、私の地域を見る目は変わりました。買い出しが不便？不便な思いをしているからこそ、買った物を大切にできるのではないかな。大雪で困る？でも、そり遊びやスキーなど、雪があったからこそできた思い出があるじゃないかな。マイナスに思っていたことの中からプラスの面を見つけることができるようになりました。

自分の住む地域の悪い所ばかり見つけがちですが、きっと良い所もたくさんあります。自分の地域の良い所を見つめ、自分ができていることを考えることで見えてくることもきっとあるはずです。

これから私は地域行事に積極的に参加し、大切な地域を少しでも盛り上げていこうと思えます。たとえそれが小さなことでも、地域の方への感謝の気持ちを行動で示していきたいです。





## 優 秀 賞

# 自分の意思を大切に

浜田市立三隅中学校  
3年 徳光 歩美

私は日頃から物をはっきり言う方だといわれます。時には言い過ぎたかなと後悔するぐらいです。でも実際は、自分の考えに自信が持てず、肝心なことが言えないでもどかしく思うことも少なくありません。こんな私が、自分の意思をきちんと持って、伝えることは本当に難しく、それだけ大切なことだと実感したことをお話しします。

「ドナー」そんな言葉を聞いたことはありませんか。「ドナー」とは、移植手術のために臓器など、体の部分を提供する人のことです。ドラマなどに出てくるので、聞いたことがある人も少なくないでしょう。それでも、それを自分のこととして考えたことがある人はどれだけいるのでしょうか。こういう私も自分には関わりのないことだと思っていました。しかし、あることをきっかけに、私はドナーについて考えたのです。

中学1年生のころ、小学校で担任してくださった先生が白血病という病気で亡くなりました。優しかった先生の顔や言葉を思い出すと、涙があふれてきました。先生の命を奪った白血病、どうにかすることはできなかったのでしょうか。

先生は、治癒を目指せる唯一の方法と言われている移植療法をするために、ずっとドナーを探しておられました。しかし、結局ドナーは見つかりませんでした。調べてみると、日本では、臓器移植を待っている人が約13,000人もいるのに、1年間で移植を受けられるのは約200人しかないそうです。

私はそれを知って、なぜドナーは増えないのか、父に聞いてみました。すると、「ドナーというと、イコール脳死と浮かぶからじゃないかな。脳の機能が失われていてもまだ心臓が動いてる。そんな体にメスを入れるということに抵抗を感じる人が多く、たとえ本人がよくても、家族が同意できない場合もある。それに、白血病に有効とされる骨髄移植は、脳死した人からの提供でなく、健康な人からの提供

でも、何か怖いというイメージが付くため、提供者が多くない。」

と教えてくれました。私はとても複雑な気持ちになりました。もし、自分の家族が移植を待っていたら、今すぐに提供してほしいと思います。でも、誰か見ず知らずの人が移植を待っていても、自分や家族の臓器を提供したいという気持ちにはならないのが本音でした。先生の死は悲しいけれど、ドナーになるのには抵抗がある、こんな矛盾した思いが私の中にあっただのです。

しかし、ある言葉を聞いて、私の気持ちは変わりました。それは、息子の臓器を提供されたお母さんの言葉でした。「息子の臓器が誰かの体で生き続けてくれるのなら、私は息子の臓器を提供します」この言葉に私の考えが少しずつ変わっていったのです。

私は今、臓器提供にイエスと言います。それを家族に伝えたところ、賛成しかねると言われました。なぜ賛成してくれないのと思いました。わが子の死を受け入れられない悲しみのおん底にある状態で、その決断をできないという親の気持ちも伝わってきました。でも今、私は、誰かの役に立つのならイエスと言いたいと思っています。

私は皆さんに伝えたい。どんなに健康な人にも寿命があり、いつまでも生き続けることはできません。だからこそ、だれもが臓器提供をするかしないかを考えることが必要であると。イエスもノーも強制されるべきことではなく、自分で考えて決めるべきであるということ。付け加えるなら、一度意思を表示したとしても、それをいつでも、何度でも変えることができるのだと。

大切なのは、自分の意思をしっかり持ち、伝えることなのだと思います。日頃、なんとなく友達に合わせてしまったり、自分の意見をはっきり言えなかつたりする時、自分に問いかけてみてはどうでしょう。人に従うだけでいいのか、後悔はしないのかと。私は先生に「自分の意思を大切に生きていきます」と伝えたいです。



## 優 秀 賞

# 未来を変える力

雲南市立海潮中学校  
3年 新田 彩海

私の住む小河内では毎年夏にバーベキューをしています。子どもは6人くらい、後はほとんどがお年寄りです。「少子高齢化」私は近年この言葉をよく耳にするようになりました。そして、私の住む海潮はこれからどうなっていくのだろうと思い始めました。私の身の周りでもその影響が出始めています。

一つ目は、中学校統合問題です。二年前、生徒数の減少によって統合しないかという話し合いが行われました。食い止めることのできない問題に、地域全体で何度も何度も話し合われました。「部活動や行事などが十分にできない」という意見や「中学校がなくなれば地域が衰退してしまう」という、様々な意見が出ました。でも私は、海潮中学校が統合になるのは正直嫌です。人が少ないのは寂しい、でもずっと住んでいる海潮の中学校に通いたいという思いもありました。部活動や生徒会活動などで「もっと人が多ければ…」と思うこともありますが、「ふるさと学習」や「小中合同の運動会」など、ここでしかできない良い経験ができる、海潮中学校にみんな誇りをもっています。

二つ目は伝統を受け継ぐことが困難になることです。私の育った小河内には神楽の社中があります。幼い頃から神楽を見ているので、体に染みついている、あの音色を聞くとわくわくします。海潮中では毎年全員が、笛や太鼓、舞いを教わる神楽体験をします。この活動は伝統を受け継いでいくことの大切さと、地域の方への尊敬の思いを持つことが出来る貴重な体験となっています。

私は、大好きな海潮の魅力が失われるのは絶対に嫌です。だからそのためにも若い世代と高齢者とが助け合い、支え合って生活していくことが大切だと思います。では、私たち中学生に何が出来るでしょう。

私はまず、海潮の魅力を発信していくことだと思いました。海潮中では毎年PR動画を作っています。授業で一人一人がじっくり教えてもらえること、地域の方と一緒にやるペタンクや調理などの活動がたくさんあることなど、海潮

中の魅力を伝えています。また、私が毎年この大会で、海潮での暮らしについて触れ、発表することも、海潮のことをPRできる大切な場だと思っています。

私は、将来看護師を目指しています。夢の実現に向けて、この夏も二つの体験活動に参加しました。サマーボランティアスクールでは、布を切ったり台紙に貼り付けたりして、ホワイトボード作りをしました。それは話すことや聞くことが困難な患者さんや高齢な方が病院にいられた時に、書いて伝えてもらうための物でした。このようなボランティア活動なら私にもできると気づきました。小さなことですが、支え合いの一つになると感じました。

また看護師体験では、自宅での生活が困難な高齢な方たちの病棟を担当しました。私は去年の経験から、表情を見て心で会話しようと心がけました。体験の後看護師さんが、「この病棟の患者さんは家に帰ることが出来ません。だから私たちは家族のように接しているんですよ。」

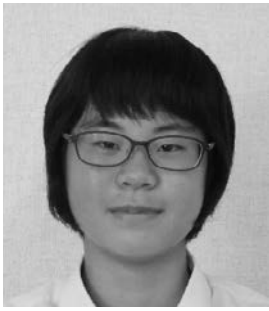
と話されました。私はこの言葉にはっとしました。私の住む海潮も少ない人数だからこそ、家族のようなつながりをもつことができると考えたのです。

この前、隣のおじいさんが野菜を届けてくださったとき、

「この前の夜神楽、よかったなあ。」

と神楽の話題になりました。一緒に神楽をしてその話をしたり、地域の方一人一人と家族のように接したりすることは、少子高齢化の及ぼす影響の中から何かを得ることにもつながると思います。

海潮だからできる、密度の濃いつながりの中でこそ、看護師に必要なとされるコミュニケーション力も高められるのではないかと思います。そして、私の大好きな海潮で幸せに生活していけるのではないのでしょうか。さあ、出来ることから始めてみましょう。あなたの力が未来を変える。



## 優 秀 賞

# 「限界」の少し先まで

隠岐の島町立西郷中学校  
3年 高梨 紗知

スポーツをしていると、自分の「限界」が見えてしまうことがあります。記録が伸びなくなる。大会等で結果が出なくなる。どんなに頑張っても、誰もがオリンピック選手になれるわけではありません。「限界」を決めてはいけないと言う人もいます。諦めずに練習すれば、必ず結果は出せるはずだと。でも、本当にそうでしょうか。

私は、4歳で水泳を始めました。最初は遊び半分でした。でも少しずつ泳げるようになり、水をかいてどこまでも行ける開放感に惹かれて、泳ぐことが好きになりました。

小学校6年の頃までは、おもしろいようにタイムが伸びました。練習はきつくて、嫌になることもあったけれど、頑張れば頑張っただけ結果はついてくると思っていました。得意の平泳ぎで県学童水泳大会3位。ここからもっと上を目指せる、もっと記録が伸ばせるはずだ……そう思っていました。

でもだんだん調子が落ちてきて、中1の県総体後、どんなに練習しても記録が出なくなりました。

ベストが出せない。コーチとも上手いかわからない。チームのみんなから置いていかれるような気がして、練習したくない、泳ぎたくないと思うようになりました。自分でも、こんなことではいけないと思っていました。でも何をどうすればよいのかわかりませんでした。そんな葛藤の中で練習していたある日、コーチに「やる気がなかったら帰れ。」と言われ、何かが切れてしまいました。

練習に行かなくなってから1ヶ月。今日こそ行こうと思いつつ、先延ばしにする。その繰り返しでした。このままやめてしまえば楽なのではないか、そんな気持ちになりました。でも今一番簡単な道を選んでしまったらきっと後悔す

ると思って、私は初めて自分と真剣に向き合い、いろいろなことを考えました。

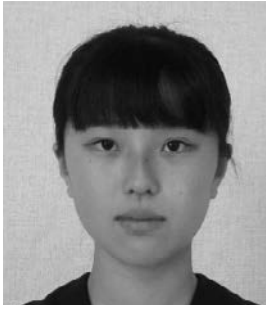
水泳を始めてからずっと順調な競技生活でした。周囲に期待されることも、チームメートに「紗知さんは、速くていいなあ。」と言われるのも当たり前の毎日。だから、そうではない自分を認めるのは難しかった。「こんなはずではない。もっとできるはずだ。」そう思っているうちにわからなくなっていた、泳ぐことの意味。もう一度自分で泳いでそれを確かめなければ、前へは進めない。そう決心してプールへ戻ることを決めました。

今年の夏、中学最後の県総体。自己ベストは出せなかったし、中国大会も逃してしまって、満足できる結果ではありませんでした。でも招集を待っているとき、抜けるような青空の下歓声が聞こえ、プール独特の匂いがして、「帰ってきたんだな。」とうれしさが込み上げてきました。スタート台に立ったときには感動がありました。

努力をしたら、必ず結果は出せるのか。私は「限界」はあると思います。でも、それがわかっているけど、私は水泳を続けていきたい。結果だけが水泳を続ける意味ではないからです。努力することを知り、周りの人に支えられていることを知り、挑戦できる何かがある。幸せなことではないでしょうか。

「限界」の先には何が見えるのか、楽しみに思える私があります。





## 優 秀 賞

# あなたのしるし

益田市立横田中学校  
2年 佐田 治子

「ねえ何でできんのん?」「早くしてやあ〜。こっち困っとるんだけど。」私が普段当たり前でできていることができないでいる人を見ると、その人のことを責めてしまうのが、私の性格であり、個性でした。

私は小学5年生のとき、学習発表会で「ジグソーパズル」という劇をしました。その劇の内容は、一人の人間をジグソーパズルの1ピースに例え、バラバラだったピースがひとつになり、やがて大きな絵が完成するというものでした。それぞれのピースには凸凹があります。一つのピースの凸凹の凸は長所、凹は短所です。しかし、その劇の主人公カズオは、何もできない凸凹でいう凹ばかりの子どもでした。運動ができなくてチームに迷惑をかけたり、勉強ができなくて友だちにバカにされたりしていつもみんなの足を引っ張る嫌われ者でした。周りの友達は、カズオの凹のせいで絵が完成しないといってとてもイライラするという設定です。私も周りの友だちに共感できる場所がありました。

しかし、劇は周りの友だちの心にも変化がでてくるという進み方をします。違う星の人が現れみんなを見た時、何もできないカズオをみてジグソーパズルにカズオは必要ないといって消そうとします。そこで初めて、カズオと自分たちがつながっていることに気づくのです。カズオの短所のおかげで、自分たちの長所が引き出され、お互いに組み合わさっていたという結末です。

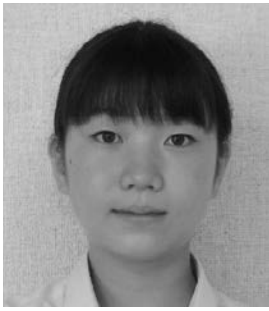
劇はうまくいきました。ですが、私の中では現実ではこんなにうまくいくのかなという違和感がありました。そんな中、私は6年生になり、広島に修学旅行に行きました。広島駅に着くと、そこで見た光景がまさにジグソーパズルの劇の世界でした。そこではある外国人が日本人のおばさんに何かたずねていました。外国人は日本語がうまく話せず、広島のことよくわからない様子でした。それに対しておばさんは広島の

ことをよく知っていました。何もわからない外国人になんとかわかってもらおうと身振り手振りを使って必死に伝えようとしていたのです。その様子はとてもいい雰囲気でした。

そのやりとりを見て、私はこれだと思いました。ジグソーパズルの世界はこうやって現実に現れるんだと。外国人の「わからない」という気持ちと、おばさんの「伝えたい」という気持ちが組み合わさって2人の心はつながることができたのです。

パソコンやスマホなどが流通し、何かと便利になった今、だれにも頼らず他人に迷惑をかけることが正しい生き方のように思われがちな世の中になってきています。でも本当にそれでいいのでしょうか。それだけでいいのでしょうか。いざジグソーパズルを作ろうと思ったとき、他人に迷惑をかけないということは一つのピースが凸凹のない正方形の方がいいということです。確かにその方が簡単にパズルを作れるでしょう。しかし、そんなパズルはすぐにつながりが切れ、崩れてしまいます。でも凸凹のあるピースの場合はお互いがしっかりとつながっているのでバラバラになりません。

わたしたち一人一人は違った凸凹を持っています。あなたの凸凹は、他の人とあなたとを見分けるしるしです。そのしるしがあるから、あなたは人とつながれるのです。私はこれまで正方形になろうとしていたのかもしれませんが。だから、何かができない人や行動が遅い人にイライラしていたのだと思います。そこで、もし私が広島で出会ったおばさんのように素直に自分のできることをしていたなら、その人とつながれたのだと思います。まずは私が私のしるしをしっかりと作り、たくさんの凸凹とつながって、大きなジグソーパズルを作っていきたいです。あなたもあなたのしるしで多くの人とつながってみませんか。



## 優 秀 賞

# 笑顔の広げ方

出雲市立平田中学校  
3年 安食 妃菜

現代では、スマートフォンやパソコンでインターネットを利用する人がとても多くなりました。私もインターネットを利用する一人です。

インターネットはとても便利です。環境さえあれば、キーワードを入力するだけで、分からないことを簡単に調べることができます。

私がインターネットを利用し始めたのは、小学4年生の頃でした。自分が知らないことをすぐに知ることができるという魅力に、はまってしまいました。知らないことを知ることは、私にとってすごく楽しいことでした。

いつからか、私は、自分が考えていることや悩んでいることを検索するようになりました。当時、人間関係で悩んでいた私は、「友達が欲しい」、「もっとスムーズに、楽しくコミュニケーションをとるにはどうすればよいのだろう」といつも考えていました。そんな私が相談相手に選んだのは、インターネット上のウェブサイトでした。私は小学校から帰ると毎日、同じことを調べました。それはもう習慣にさえなっていました。「友達を作る方法」、「コミュニケーションの取り方」と打ち込むと、「まずはあいさつから自分ですること」や「人を褒めること」など、たくさんの方を教えてくださいました。

しかし、毎日相談しても、何度検索しても、自分なりの答えを見つけることはできませんでした。そして、毎日がつらくなりました。マイナスな考え方をするようになり、何でも「自分が悪いんだ」と考え、だんだんと悩みから逃げていくようになりました。

そんな状態のまま、小学5年生になったとき、私に友達ができるようになりました。私と似たような悩みを持つ人との出会いでした。「何かあった?」「ひなちゃんはやさしいね」と言ってくれました。お互いに悩み、必要としていたからこそ、出会えた友達です。とてもうれしかったです。

ところが中学生になった私は、また悩みました。少人数の小学校とは違う大人数の中で、悪

口などにより、友達が減ってしまうことがありました。また、部活動での人との関わりにも悩みました。「人から嫌われるのがこわい」と思うようになりました。そんなとき、私を前向きにしてくれたのは、友達や家族の「気にしないでいい。」「人を思いやれるのがひなのいいところだよ。」という言葉でした。

私は今、悩みがあると私の大好きな友達や家族に相談をしています。向き合って、一緒に考えてくれる人達は私にとって心強く、大切な存在です。相談した後は、心が軽くなって前向きな気持ちになれます。

また、「この行動はよかった、いけなかった。」というアドバイスは私にとって、とても貴重です。私のことをよく知ってくれている人たちが、私の悩みを解決するために選んでくれた特別な言葉です。大切な人だからこそできる、すてきな方法です。

今でもインターネットを使って悩みについて考えることはあります。インターネットは、便利なものです。しかし、私たちのことを全部知って、ベストな情報をくれるものではないと思います。近すぎず、頼りすぎず、心地よい距離で利用することが大切だと考えるようになりました。

私は、相談してくれる友達に、そばにいる私だからこそ言える言葉を選ぶよう心がけています。また、友達のよいところや、その人にしかできないことを見つけることで、お互いにうれしい気持ちになります。そして、笑顔になり、自分に誇りを持つことができます。

インターネットだからできること、あなただからできること、私だからできることをしっかりと見極め、区別したいと思います。そして、それぞれができることを見つけて、伝えることで、笑顔を広げていきたいです。みなさんも、そばにいてくれる大切な人たちと、笑顔を広げてみませんか。



## 優 秀 賞

### 「ごめんなさい」

大田市立第一中学校  
2年 花田 春希

「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」「ごめんなさい」。これらの言葉は、僕達の何気ない日常に満ちあふれています。

そして、「うるさい」「だまれ」「ばか」「死ね」といったような、人を傷つける、冷たい言葉が僕達の身近なものとしてあるのも事実です。皆さんは、このような人を傷つける言葉について、どう思いますか？

最近、ニュースでよく話題になっているいじめも、小さな一言が原因で、大きなものに発展していくのだと思います。みんなが気持ちよく生活するには、誰かが傷つくような言葉、暴言なんてものはない方がいいのが当たり前です。しかし、その場の空気やノリで、後先考えずに言う、そんな人も多いのではないのでしょうか。

人が傷つくような言葉を言わない人は、自分の悪いところがわかっている人や、自分がやられて嫌なことを知っている人だと、多くの方がわかっています。

でも、頭でわかっている、それを実践できている人は、かなり少ないです。僕も、頭でしかわかっていない内の一人です。

人が傷つく言葉を言わない。これは難しいことだと思います。難しいからこそ、人が傷つく言葉を言ってしまった後の、「ごめんなさい。」という一言が、大切になってくるのではないかと僕は感じます。

僕が「ごめんなさい。」という言葉を意識するようになったのには、理由があります。

ある日、僕は親とけんかをしました。些細なことが原因だったのですが、けんかはヒートアップし、僕は思わず「死ね」と、言うてはいけない言葉を言っていました。

人に対して、特に家族には「死ね」と言わないということは決めていたのに…。その一言を言ったとき、けんかに勝ったような気がして、すっきりしたし、気持ちの良さを感じていました。

でも、その気持ちが続いたのはほんの数分で、後に待っていたのは、深い後悔と罪悪感でした。

「ごめん」の一言を言うことができればよかったのです。しかし、その一言は、僕の口からは出ませんでした。「ごめん」という一言を言う勇気が僕にはありませんでした。

「死ね」と言うてしまったことへの後悔の念は、多少はあったものの、その時は親への怒りや憎しみの気持ちが強く、素直に謝ることができませんでした。

また、ある時、僕は家に定規を忘れ、友達から定規を借りることにしました。授業中に定規を使おうとしたところ、思わず力が入ってしまい、折ってしまいました。

その時、すぐに謝ればよかったのですが、その時の僕はまだ謝るのが怖くて、すぐに謝ることができませんでした。そして、家に帰ってから悩みました。誰にも気づかれずに「処理、解決したい」というのが、本心でした。

似たものを買って渡せばごまかせるかな…。僕の頭にふと、自分のしたことをごまかそうとする、ずるい考えが思い浮かびました。でも、そんなことをすれば、謝れずに後悔する、前と同じ結果になってしまう。

僕は決めました。「許してもらえなくてもかまわないから、謝罪の気持ちだけは精一杯伝えよう」と。

次の日、緊張しながら学校で友達に謝りました。「ごめん」と。友達は最初怒っていました。でも、「いいよ」と言うてくれました。その言葉を聞いたことで、「ごめん」と言えた僕の中には、本当にすがすがしかったです。そこには、過去の謝ることが怖い、臆病な自分はいませんでした。

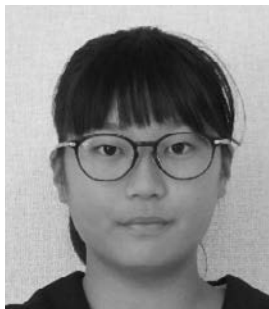
何かを壊してしまったり、人を傷つけたりしてしまうのは、良くないことです。そして、それによって人間関係が崩れることだってあります。人の持ち物と同じく、壊れた関係はやり直しがききません。

自分が間違っただけをしたり、人を傷つけたときに、素直に「ごめんなさい。」と言えることは、シンプルですが、とても難しく、大切なことです。

この体験から、僕はこれからどんな時でも、日々の自分の発する一言一言を意識したいと思います。そして、その中でも特に、素直に「ごめんなさい」と言えること、これを大切に過ごしていきたいです。

みなさんは、どんなことにも素直に「ごめんなさい」と言える、そんな勇気があると、胸を張って言えますか？





## 優 秀 賞

### 一人一人の意識

安来市立第一中学校  
2年 角 まりな

今まで身近な人の発言や行動で嫌な気持ちになったことがありますか。今まで身近な人を自分の発言や行動で嫌な気持ちにさせたことはありますか。

私は嫌な気持ちになったことがあります。嫌な気持ちにさせたことは……正直わかりません。

傷つけられたときは、いつ、どこで、誰に傷つけられたか、大体は明確にわかります。ですが、傷つけたときは、いつ、どこで、どうして傷つけたのかは、悪意がない限りわかりません。人間関係を築いていくうえで一番怖いことは、この傷つけたのか、傷つけていないのかを明確に知ることができないことだと私は思います。

実際、私が人と交流するときは、いつも不安でいっぱいです。私が見つめていないところで、目の前のこの人は、私の発言や行動で傷ついているのかもしれない。そんな考えが脳裏をよぎるたび、何とも言えない気持ちになります。あえて言うのであれば、不安な気持ちです。相手を嫌な気持ちにさせてはいないかと不安になり、傷つけた確証もないのに、傷つけてしまったと思い、心の中で自分を責める。できることなら誰も傷つけない。偽善のように聞こえるかもしれませんが、それが私の本音です。ですが、心の中で自分を責めるにも限度があります。自分を責め続けた痛みが抑えきれず、苦しくなることが何度もありました。

そんなことになったのは、小学校の頃に起きたことが一つの原因ではないかと考えています。小学校3年生のとき、私はいじめにあいました。いじめと言ってもいろいろありますが、私が経験したのは、靴や筆箱を隠されたり、傘を折られたり、靴の中に画鋲や雪を入れられたりです。それを見つけたときは、自分がされたのが悔しくて、胸が苦しくなり、泣くことしかできませんでした。

そんないじめは約2年続きました。それをした人はいまだわかりません。今になってその人を探したいわけではありません。ただ、誰かもわからないその人に、全く関係ないと思っている人に、将来、人をいじめるかもしれない人に、過去に人をいじめたことがある人に、現にいじめている人に、一度でもいいから、いじめをなくすにはどうすればいいのかを考えてほしい。そして、傷ついた人に寄り添ってほしい。ただそれだけです。ふざけだったり、軽く考えたりして、自分には関係ないと流してほしくないです。

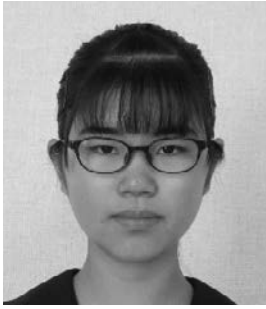
今、私は中学校生活を楽しく過ごし、友だちとの関係もうまくいっていると思います。ですが、まだ自分が周りの人たちに心を開いていないと思うことがあります。やはり、自分の言葉が相手にどう受け止められるのか不安で、気持ちを抑えてしまうし、相手の気持ちを確かめることもできないのです。

これから先、人ともっと深い人間関係をつくることができれば、自分自身の考え方や視野も広がるし、今よりもっと人を心から信頼できると思います。そのための勇気をもちたいです。

また、自分に対してだけでなく、嫌な気持ちにさせるような言葉が聞こえたとき、それを言われた人や、その言葉を聞いた人の気持ちを考えるようにしています。しかし、今はまだその言葉をやめさせるような声をかけることは、勇気が足りなくてできていません。それでもいつかはやめさせるような行動ができるようになりたいです。

そのような一人一人の意識が、行動が、広がっていけば、学校にはいじめがなくなり、さらに世の中にいじめというものがなくなると思います。

私も、その第一歩を踏み出したいです。



## 優 秀 賞

# 自分に負けない

大田市立第一中学校  
2年 杉谷 心優

「自分のことをあんまり話さないよね。」

そう言った友達は特に深い意味をもって話したわけではないと思いますが、私はこの一言にドキッとしました。確かに私は、自分のことを何でも話すタイプではなく、その自覚はありました。それに私自身も、思ったことをはっきり言えていないと感じていて、正直そんな自分であることは、嫌なことでした。

私が思ったことをあまり言えなかったのは、相手がどう思うかということばかりを気にして、不安で心配だったからです。私は相手に「自分とは合わない」とか「自分と違うタイプの人だ」と線引きされたくありませんでした。だから、何かを尋ねられたときは何に関してでも他人の顔色ばかりをうかがって相槌や返答をしていました。それを続けるうちにくせになり、言うことができなくなっていったのです。

私は、友達と本を選んでいたとき、「この本、正直つまんなかったんだよね～」と言われたことがあります。私はその本をつまらないとは思っていませんでしたが、いつものくせで、「私も読んだけど、つまらんかった。」と言ってしまいました。でも、これはあくまでも相手に同意しているだけで、自分の本心とは限りませんでした。相手に言った後、何か違う感じ、もやもやした感じが残りました。心の中では言おうとするのですが踏ん切りがつかず、それでも次こそは言おうと毎回のようには思っていました。けれども、不安が勝ってしまい、つい「私も」と言ってしまっていました。

これが大きなこと、例えば、いじめのような場合もあるかもしれません。ある人から、「○○さんって、嫌じゃない？」と尋ねられたとします。いつものように「そうだね。」とその子が嫌いではないのに相手に合わせて、そのときの私だったら言うのではないかと思えます。もしそれが実際にあって、本当に言ってしまったら、取り返しのつかないことになっていたかもしれません。そうならないためにも、思ったことを言える強い自分に変わりたいとよ

り一層思うようになりました。

そんな私を決心させてくれるきっかけとなったのはあの一言、

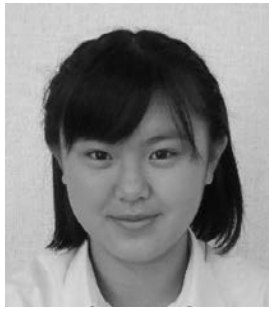
「自分のことをあんまり話さないよね。」

でした。これによって、今まで「次は、次は…」と後回しになっていたこれまでの自分を何とか変えなければと、より強く思うようになりました。だからといって、不安や心配が全てなくなったわけではありません。急に強くなれるわけでもありません。ですから、毎回自分で「今言わず」「思っていることを口にするぞ」と心に決めるようにしました。

ある日のことです。友達との会話の中で意見が違ったとき、いつもなら言えない自分の意見を「私はこう思うよ。」と尝试してみました。「みゆはそう思うんだね。」と自然に受け止めてくれ、自分も言っているんだと思えました。意見が言えたことをうれしく感じ、それが自信につながりました。それを繰り返して行って、自然に言えるようになりました。友達と意見が違ったときは、友達の意見、考えを尊重しながら、自分の思いを伝えるように心がけて言いました。すると、だんだん不安が消えて行って、会話をするのがとても楽しくなりました。

私は、友達の一言で、言いたいことを言えない自分を変えることができました。人は話さなければ全てがわかるわけではありません。ですから、少し前の私のように相手がわからないことを逆手に取り、言わないという人もいるかもしれません。ですが、私は言ったほうが良いと思うし、何よりそのほうが楽しいです。友達と意見が違ったとき、それを伝える方法を間違えなければ友達と仲が悪くなることもないだろうし、むしろ本音を言えて、仲が深まることもあると思います。

友達との距離感是人それぞれ違うかもしれませんが、だから、これが一概に良いとは言えません。ですが、私は、言いたいことを言えない自分に負けず、言いたいことを言える自分でありたいです。



## 優 秀 賞 合 同 チ ー ム

飯南町立頓原中学校  
3年 森山 智望

放課後、一人、体育館に行くのが私は嫌だった。がらんとした体育館。不気味な静けさ。「お願いしまあす！」壁や天井から、ウワーンという反響だけが返ってくる。サーブを打てば行ったきり。散らばったボールを拾いながら『何やってんだろう。』とため息がもれる。

2年生の夏、私のバレーボール部は、2人いた先輩の引退によって、私一人になってしまいました。同級生も後輩もいません。辛くて、悲しくて、練習をしながら私は泣き出しそうでした。

時折練習を見に来ていた母が、そんな私にこんなことを言いました。

「あなたがしたいことは何なの？バレーだよね。」

そして、父は

「智望一人でも、好きなバレーをさせてもらえるんだ。幸せなことじゃないか。」

そう言って励ましてくれました。確かに、私はバレーがやりたくて、一人になるのを承知で入部したはずでした。

1年生の時、私はたった一人の新入部員として入部しました。2・3年生の先輩たちと過ごしたわずか2か月の部活はすごく楽しかった。本当にバレー部に入って良かったと思いました。でも、3年生が引退されると、部員は2人の先輩と私の3人。この3人に、木次中学校から6人の1年生が加わってくれて、「頓原・木次合同チーム」になりました。私は、同じ1年生の仲間ができたことがすごくうれしくて、ちょっとはしゃいでいました。

2年生になって、待っていた新入部員は、ゼロ。予測はしていましたが本当に絶望的な気持ちになりました。そして数か月後には、先輩の引退。私は、とうとう一人になってしまったのです。

覚悟のうえで入部したとはいえ、がらんとした体育館で練習する毎日。ほんとに泣きそうでした。でも2か月たって、町内の赤来中学校と合同チームを組んでもらえることになり、「赤来・頓原合同チーム」がスタートしました。みんな、たった一人の私をとっても温かく迎えてくれました。新しい仲間とまたバレーができるといううれしさ。もちろんうまくいかないときや落ち込むときもありました。練習方法も学校に

よって違うし、競技に対する考え方も違う。でもそういうことにも増して、頓原から一人だけ加わる、ということの孤独は想像以上にきつかったです。

スクールバスに一人ポツンと乗って合同練習に向かうと、いつもの見慣れた景色もさみしく見えて、ネガティブなことばかり考えていました。『ああ、どうせレギュラーになれないし。もういや！』そんなふうにながら心が折れそうな私が、なんとか耐えられたのは、『私がしたいのはバレー。それができるだけ幸せ！』と、いつもそこにもどれたからです。

今年の4月、新入生への部活動紹介。私は必死でした。映像を使ったり笑いをとったり。『何とかバレーの楽しさを伝えよう。』『どうか6人以上は入って！』祈るような気持ち。仮入部の期間をドキドキしながら過ごし、そして正式入部の日、なんと12人もの新入部員が来てくれました。私は心の中で何度もガッツポーズをしました。最後の総体では、結成1か月ほどのやっとなルールを覚えられたというチームだったので、もちろんひとつも勝てませんでした。けれども、私の心は充実感と達成感でいっぱいです。『最後まであきらめないでやってきて、本当に良かった！』

でも・・・私は、何度も変わるチーム環境に翻弄されました。おかげで強くなれた、自分ではそう思います。私に後悔はないし、すてきな出会い、感謝、感動がいっぱいです。自分の置かれた状況で、精一杯花を咲かせる、そうすれば最後に笑顔になれる、そんな貴重な学びがありました。しかし、3つのチームを渡り歩き、孤独と闘い、人にもまれる経験は、本当につらかった。

確かに、私のように一人になっても、合同チームとして大会に参加できるということはとてもありがたいことです。でも、もし私を支えてくれる父や母、仲間や先生がいなかったら・・・私はダメになっていた。今でもそんな恐怖がふっと心に浮かびます。

チームが組めない人数でも、一人になっても、楽しく生き生きとバレーをするには、どうすればいいのでしょうか。皆さん、考えてみてください。私と一緒に、考えてください。



# 令和元年度 少年の主張島根県大会開催要項 (第48回 島根県少年弁論大会)

- 趣 旨 中学生自らが社会の一員であることを自覚し、責任感に目覚め、健やかに成長することが求められている。この「少年の主張島根県大会」は、明日を担う中学生が日常生活を通じ、日頃考えたり感じたりしたことを広く発表することにより、中学生の自立心を育てる機会とするとともに、視聴する親や大人の青少年健全育成に対する深い理解・関心、協力を求めようとするものである。
- 主 催 青少年育成島根県民会議 島根県中学校長会（主管：大田市中学校長会）  
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
- 共 催 大田市教育委員会
- 後 援 島根県 島根県教育委員会 島根県警察本部 大田市  
大田市青少年育成市民会議 島根県PTA連合会 大田市PTA連合会
- 開催日時 令和元年9月26日（木） 10：30～15：30
- 開催場所 大田市民会館 大ホール  
〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ128（電話：0854-82-0938）
- 発表者 中学校に在学する者（国籍は問わないが、日本語で発表する者）で、市郡中学校長会長より推薦された者。（市郡別の定員は別表のとおり）ただし、県大会開催市郡に限り定員より1名追加して推薦することができる。（発表順は別途事務局にて抽選）
- 実施方法 (1)発表時間 5分程度（6分以内を厳守）とする。（400字詰原稿用紙4枚程度）  
(2)発表内容 ①社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。  
②家庭、学校生活、社会（地域活動）及び、身の回りや友達との関わりなど。  
③テレビや新聞などで報道されている社会のさまざまな出来事に対する意見や感想、提言など。  
以上、3つの中のいずれかに該当し、心からの思いや考えたこと、感銘を受けたことなどを、中学生らしい自由でユニークな発想で、飾り気のない言葉でまとめたもの。また、商業的な固有名詞の使用は極力避けるようにする。
- 審査員 別に定める。
- 表彰 審査の結果、次の区分により発表者全員に賞状及び賞品を授与する。  
島根県知事賞 1名（県代表） 島根県教育委員会教育長賞 1名  
島根県警察本部長賞 1名 青少年育成島根県民会議会長賞 1名  
審査員特別賞 2名 優秀賞 11名
- 発表者の交通費等 発表者の交通費及び昼食は主催者が負担する。
- 発表者名簿・発表原稿の提出 各市郡中学校長会長は、発表者名簿・発表原稿を9月10日（火）までに青少年育成島根県民会議事務局まで提出すること。（期限厳守、FAX・メールでもよい。）  
▼青少年育成島根県民会議 〒690-8501 松江市殿町1 県庁青少年家庭課内  
TEL：0852-22-6524 FAX：0852-22-6045  
e-mail：nobinobi@shimane-youth.gr.jp
- その他 県代表者の発表は中四国ブロック枠で発表原稿、録音したカセットテープ又は電子媒体で審査され、各ブロック代表者（2名）は、「第41回少年の主張全国大会～わたしの主張2019～」[主催：(独) 国立青少年教育振興機構 令和元年12月8日（日）  
於：国立オリンピック記念青少年総合センター]に出場する。

## 審 査 員

|       |                            |         |
|-------|----------------------------|---------|
| 審査員長  | 松江市広報専門監<br>元山陰中央新報社論説委員長  | 松本 英史 様 |
| 審 査 員 | 山陰中央新報社特別論説委員              | 前田 幸二 様 |
| 審 査 員 | 鳥根県警察本部生活安全部<br>少年女性対策課管理官 | 三浦 洋子 様 |
| 審 査 員 | 鳥根県教育庁浜田教育事務所指導主事          | 河村 恭子 様 |
| 審 査 員 | 大田市青少年育成市民会議副会長            | 小林 公司 様 |
| 審 査 員 | 大田市教育委員会教育委員               | 梶 伸光 様  |
| 審 査 員 | 大田市校長会長                    | 岩谷 律子 様 |

## 来 賓

|                      |         |
|----------------------|---------|
| 鳥根県教育委員会委員           | 藤田 千鶴 様 |
| 鳥根県教育委員会委員           | 浦野 智実 様 |
| 鳥根県教育委員会委員           | 出雲佳代子 様 |
| 鳥根県教育委員会委員           | 真田 直幸 様 |
| 鳥根県教育委員会委員           | 林 朋宏 様  |
| 鳥根県大田警察署長            | 木島 亨 様  |
| 鳥根県警察本部生活安全部少年女性対策課長 | 三浦 祐明 様 |
| 鳥根県教育庁浜田教育事務所企画幹     | 土井 伸一 様 |
| 鳥根県浜田児童相談所長          | 眞邊 玲子 様 |
| 大田市長                 | 楫野 弘和 様 |
| 大田副市長                | 清水 克典 様 |
| 大田市議会議長              | 石橋 秀利 様 |
| 大田市教育委員会教育長          | 船木三紀夫 様 |
| 大田市教育委員会教育委員         | 竹下ちとせ 様 |
| 大田市教育委員会教育委員         | 仲野 義文 様 |
| 大田市教育委員会教育委員         | 木村 貴子 様 |
| 大田市教育委員会教育委員         | 福間 信隆 様 |
| 大田市教育委員会教育部長         | 川島穂士輝 様 |
| 大田市学校教育研究会会長         | 橋 弘章 様  |
| 大田市PTA連合会会長          | 秋森 健太 様 |

# 令和元年度 「少年の主張島根県大会」 市郡大会概要一覧

| 市郡名 | 学校数 | 出場枠 | 市郡大会<br>開催日時 | 市郡大会<br>開催場所        |
|-----|-----|-----|--------------|---------------------|
| 松江  | 19  | 2   | 9月5日(木)      | (橋北地区)<br>美保関公民館    |
|     |     |     |              | (橋南地区)<br>東出雲ふれあい会館 |
| 安来  | 5   | 1   | 8月29日(木)     | 第二中学校               |
| 出雲  | 15  | 2   | 9月9日(月)      | 平田中学校               |
| 雲南  | 7   | 1   | 8月30日(金)     | 掛合中学校               |
| 飯石  | 2   | 1   | 8月28日(水)     | 頓原中学校               |
| 仁多  | 2   | 1   | 8月29日(木)     | 仁多中学校               |
| 大田  | 6   | 2   | 9月3日(火)      | 第一中学校               |
| 浜田  | 9   | 1   | 9月11日(水)     | 浜田東中学校              |
| 江津  | 4   | 1   | 9月4日(水)      | 桜江総合センター            |
| 邑智  | 6   | 1   | 9月11日(水)     | 羽須美中学校              |
| 益田  | 10  | 2   | 9月2日(月)      | グラントワ               |
| 鹿足  | 5   | 1   | 9月3日(火)      | 六日市体育館              |
| 隠岐  | 7   | 1   | 9月10日(火)     | 海士町開発センター           |

\*開催地 大田市については1名追加



# アトラクション紹介

## ～北三瓶っ子太鼓クラブ，土江子ども神楽～

### ～北三瓶っ子太鼓クラブ～

北三瓶っ子太鼓クラブは、全員が北三瓶小中学校に通う有志のメンバーです。福岡や広島、大阪、東京など、全国から大田市山村留学センターに山村留学をしに来ている子どもと、地元の子どもとで構成しています。

長い間農耕文化を築いてきた日本には、豊作を願ったり、収穫の喜びを表したりする太鼓や踊りがいくつもあります。そういった日本の文化を大切に受け継いでいくために、昔の人の気持ちに思いを馳せながら、ひと月に2～3回、日本各地に伝わる太鼓や踊りの練習をしています。今回は、中学1年生と3年生の8名で、ぶち合わせ太鼓、三宅島太鼓を披露します。力強い太鼓の響きをとくとお聞きください。

### ～土江子ども神楽団～

土江子ども神楽団は、約300年の歴史があり、毎年、正月3日に行われる「仮屋行事」で、子ども達の成長する姿を町内の大人達に見てもらうために舞われていました。

現在、小学生31名、中学生11名の42人が所属し、週2回の練習を重ね、年間60回を超える公演を行っています。演目は石見銀山の世界遺産登録を記念して創作された「金山姫銀山勧請」や、地元の歴史を題材にした「剣田」など20を超え、地元はもちろん県内外、また、ドイツやベトナム・韓国など海外にも招聘され公演しています。

本日は、中学生6名、小学生8名、14名の団員より、演目「大蛇」を披露いたします。神楽の面白さや迫力など、その醍醐味をどうぞ味わってください。



五十猛海と山のふれあい祭り



大蛇

## 平成30年度(昨年度)の受賞者

- |                                |                        |
|--------------------------------|------------------------|
| ◆島根県知事賞<br>「ダブル」               | 隠岐の島町立西郷中学校 1年 高 梨 は な |
| ◆島根県教育委員会教育長賞<br>私の生命線         | 飯南町立頓原中学校 3年 中 柚 月     |
| ◆島根県警察本部長賞<br>家族で闘う            | 津和野町立日原中学校 3年 斎 藤 明 里  |
| ◆青少年育成島根県民会議会長賞<br>今、私たちにできること | 安来市立第一中学校 3年 伊 達 このか   |
| ◆審査員特別賞<br>守るべきもの              | 雲南市立大東中学校 3年 永 井 宏 樹   |
| 自分を变える                         | 出雲市立平田中学校 3年 野 津 歌 純   |

# 令和元年度 少年の主張全国大会 審査結果

期日／令和元年12月8日（日） 13時～16時

会場／国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟大ホール

|    | ブロック     | 評価結果            | 県名  | テーマ                                | 氏名                | 学校名   |
|----|----------|-----------------|-----|------------------------------------|-------------------|---|
| 1  | 中部・近畿    |                 | 石川県 | ひと滴の力                              | あらいえ さと<br>新家 彩桃  | かがしりつやまなかちゅうがっこう<br>加賀市立山中中学校                       |
| 2  |          |                 | 三重県 | 殺処分のない未来に向けて                       | いしだ はるか<br>石田 晴香  | すずか しりつひらたのちゅうがっこう<br>鈴鹿市立平田野中学校                    |
| 3  |          |                 | 京都府 | ネット社会における『見る』ということ                 | つつみ なな<br>堤 菜々    | かめおか しりつなんそうちゅうがっこう<br>亀岡市立南桑中学校                    |
| 4  | 中国・四国    |                 | 愛媛県 | ぎゅっと「ありがとう」                        | みなくち あい<br>水口 藍   | いまぼり しりつちかみちゅうがっこう<br>今治市立近見中学校                     |
| 5  |          |                 | 島根県 | 泥の中から見つけたもの                        | やはぎ しょうき<br>矢萩 勝希 | こうつ しりつさくらえちゅうがっこう<br>江津市立桜江中学校                     |
| 6  | 九州       | 文部科学大臣賞         | 熊本県 | 私が望む優しい未来は                         | ひろおか りな<br>廣岡 里奈  | くまもとだいがくきょういぐがくぶ ぶぞくちゅうがっこう<br>熊本大学教育学部附属中学校        |
| 7  |          |                 | 大分県 | 自分らしく                              | もりた しょうき<br>森田 翔輝 | たけた しりつなおいりちゅうがっこう<br>竹田市立直入中学校                     |
| 8  | 北海道・東北   |                 | 福島県 | 手話から広がる世界                          | いしやま みなみ<br>石山 心南 | きたかた しりつたかさとちゅうがっこう<br>喜多方市立高郷中学校                   |
| 9  |          | 審査委員会委員長賞       | 宮城県 | 十人十色                               | かとう かいと<br>加藤 海音  | とめ しりつさぬまちゅうがっこう<br>登米市立佐沼中学校                       |
| 10 | 関東・甲信越静岡 | 国立青少年教育振興機構理事長賞 | 山梨県 | 繋ぐ糸が切れないように                        | こまつ ひな<br>小松 日菜   | ほくと しりつこうりょうちゅうがっこう<br>北杜市立甲陵中学校                    |
| 11 |          | 内閣総理大臣賞         | 東京都 | 心の扉                                | ふじた だいご<br>藤田 大悟  | つくばだいがくぶぞくしかくとくべつしえんがっこう<br>筑波大学附属視覚特別支援学校<br>(中学部) |
| 12 |          | 審査委員会委員長賞       | 静岡県 | 地域とともにある生徒会——<br>今、私たちにできること、すべきこと | もちづき かりん<br>望月 香琳 | しずおか しりつしみずりょうちゅうがっこう<br>静岡市立清水両河内中学校               |

## ※全国大会開催事項より抜粋 表彰

全国大会出場者全員（12名）に国立青少年教育振興機構理事長より奨励賞、全国大会出場者に選考されなかった都道府県代表者全員（35名）に同理事長より努力賞を贈ります。

## 心の扉

東京都 筑波大学附属視覚特別支援学校  
(中学部) 1年 藤田 大悟

「視覚障害はただ目が悪いだけで、努力すれば健常者と同じように勉強できる。」

普通小で日々を過ごす中、こんなことを思っていました。今思えばその気持ちの後ろには「みんなに遅れを取らないように頑張らなきゃ。」という一心で自分を追い詰め、クラスから自分を守ろうとする見えない鎧を身につけていたのだと思います。

6年生の春。鎌倉への遠足での出来事です。鎌倉は山道も多いことから当初は行くことに乗り気ではなかったのですが、思い出作りと思っ

て行くことにしました。「班全員で最終チェックポイントを回り終わること。終わった班からお弁当。」というルールで遠足がスタート。全員がチェックポイントめがけ走り出し、班のみんなもどんどん進み、僕との距離は離れていきました。

「僕が視覚障害ってこと、知ってるよね。少し待ってよ。」

と思いましたが、次第にみんなの姿も鎌倉の山道の中に消えていきました。

やっと合流した最終チェックポイントで、「お前のせいで回るのが遅くなったじゃないか。」

と言われ、愕然としました。

「ごめん。」

この言葉で精一杯でした。遠足終了。

僕は遠足の後、

「みんなの気持ちもわかるけど、あんなことを言われて解決しないまま卒業したくない。」

とじっくり解決の道を探っていました。ふと、「僕の見え方、配慮して欲しいことを皆に説明したことあったかな？」

と考えた末に「自分」をスピーチで伝えることにしました。

11月7日、ついにその日が来ました。まず器具を使って僕の見え方を体験してもらおうと、

「大悟ってこんなに見えてなかったんだ。」

という第一声が飛び交いました。見え方さえ分かり合えていないことを知り、今まで説明していなかった自分が情けない反面、話せて良かった、という安心感が複雑に混じりました。次に

配慮して欲しいことなどを伝えてスピーチが終了。

この日は僕にとって貴重な一日となりました。なぜなら、予想以上にわかり合えていなかったことを知り衝撃的だった一方で、現状を伝える大切さを痛感したからです。

そして、スピーチから1ヶ月経った12月8日、音楽会を迎えました。僕は学年代表としてピアノ伴奏をすることとなり、日々練習に励みました。

本番当日、保護者を前に異様な緊張に包まれた体育館で演奏が始まりました。不覚にも数小節の音が抜けてしまいました。が、日々練習を重ねたことで幸運にも伴奏を再開できました。しかし伴奏終了後は、あれだけ練習したのにと、やりきれない思い、合唱を台無しにしたという罪悪感、鎌倉の時のように皆から責められ孤独を味わうのではないかという恐怖、様々な思いが一気に押し寄せます。今までにないほどの涙が溢れました。

恐る恐る教室へ帰るとなんと予想に反してみんなが励ましの声をかけてくれたのです。この時僕は辞書を引いても適する言葉が見つからないほど幸せな気持ちでした。スピーチで皆が本当の僕をわかってくれ、一人のクラスメイトとして受け入れてくれた、と肌で感じられたからです。同時に、皆に対して構えていた僕の中にあつた見えない壁も崩れていきました。この瞬間、気持ちが初めて通じ合い、障害という枠を超え認め合っている仲間の証拠を感じられました。

この体験で新たなことに気づきました。

それは、「自分が障害者だから自分を理解してもらおう」と相手にばかり求めるのではなく、自分も心を開いて相手を受け入れる必要があるということです。このことは当然のことのようですが、その一歩を踏み出すのはとても勇気のいることでした。だからこそこのような体験ができてとても嬉しいです。この体験を心のノートに太文字で書き記しておきたい。

「心の扉を開こう。そして、Let'sチャレンジ。」





# あ と が き

令和元年度「少年の主張島根県大会」の報告書をお届けします。本年度の県大会は大田市民会館を会場に行われ、県内13市郡から選抜された17名の皆さんが出場しました。

今回の発表内容には「ネット検索では出てこない悩みを相談できる友達を見つけた喜び」「自分が過去に受けたいじめの体験からいじめをなくそうと一歩踏み出した経験」「感情に任せて乱暴な言葉を放ち、後悔してしまったこと」「ボランティア体験」「農業体験」や「伝統文化」とのふれあいによって自ら動き始めたことなど多彩なテーマがありました。

主張発表者が体験し、心を動かされた内容は人それぞれですが、そこから自分の気持ちやこれまでの行動を見つめ直し、今後の行動を改善したり、将来の夢に向かって努力をしたりしようとするしっかりとした決意を感じることができました。

この報告書をご覧いただいた皆さんはいかがでしょうか。発表者の皆さんは中学生ですが、自分のことだけでなく周囲をよく見て、神経細やかに、将来のことも考えながらしっかり生きています。それどころか、「大人がもっとしっかり生きなさい」と叱られているような気になりました。

この報告書には、県大会で発表された17作品と、全国大会での最優秀作品を掲載しています。多くの皆さんに読んでいただき、発表者の思いが一人でも多くの皆さんに伝わり、青少年育成に各分野で活かされることを願っています。

令和元年12月

令和元年度「少年の主張島根県大会」  
審査員長 松本 英史

令和元年度 少年の主張島根県大会報告書

令和2年1月発行

編集 青少年育成島根県民会議

〒690-8501 島根県松江市殿町1番地（県庁青少年家庭課内）

TEL 0852-22-6255 FAX 0852-22-6045

<https://www.shimane-youth.gr.jp/>

E-mail : [nobinobi@shimane-youth.gr.jp](mailto:nobinobi@shimane-youth.gr.jp)

Facebook 「青少年育成島根県民会議」



青少年育成島根県民会議  
シンボルマーク